

## 9月の株式市場展望

(作成者：奥村義弘)

### <国内株式>

日経平均株価は2万2,000円台でのみ合いが続いている。4-6月決算は外需関連を中心に順調な業績の進捗を示す決算が多く好印象だったが、外部環境は米加のNAFTA交渉の難航、米中貿易摩擦の激化など不透明感が拭えない状況が続いている。

9月6日の中国からの輸入品2,000億ドルに対する25%追加関税の意見募集期限を越え、市場は、米国の第3弾の追加関税発動に身構える状況が続いている。米中間選挙の予備選も終盤を迎えており安易な妥協は期待しにくい。ただ月後半は、悪材料の織り込みも進み、日本株の割安感の強まりに徐々に関心が集まろう。

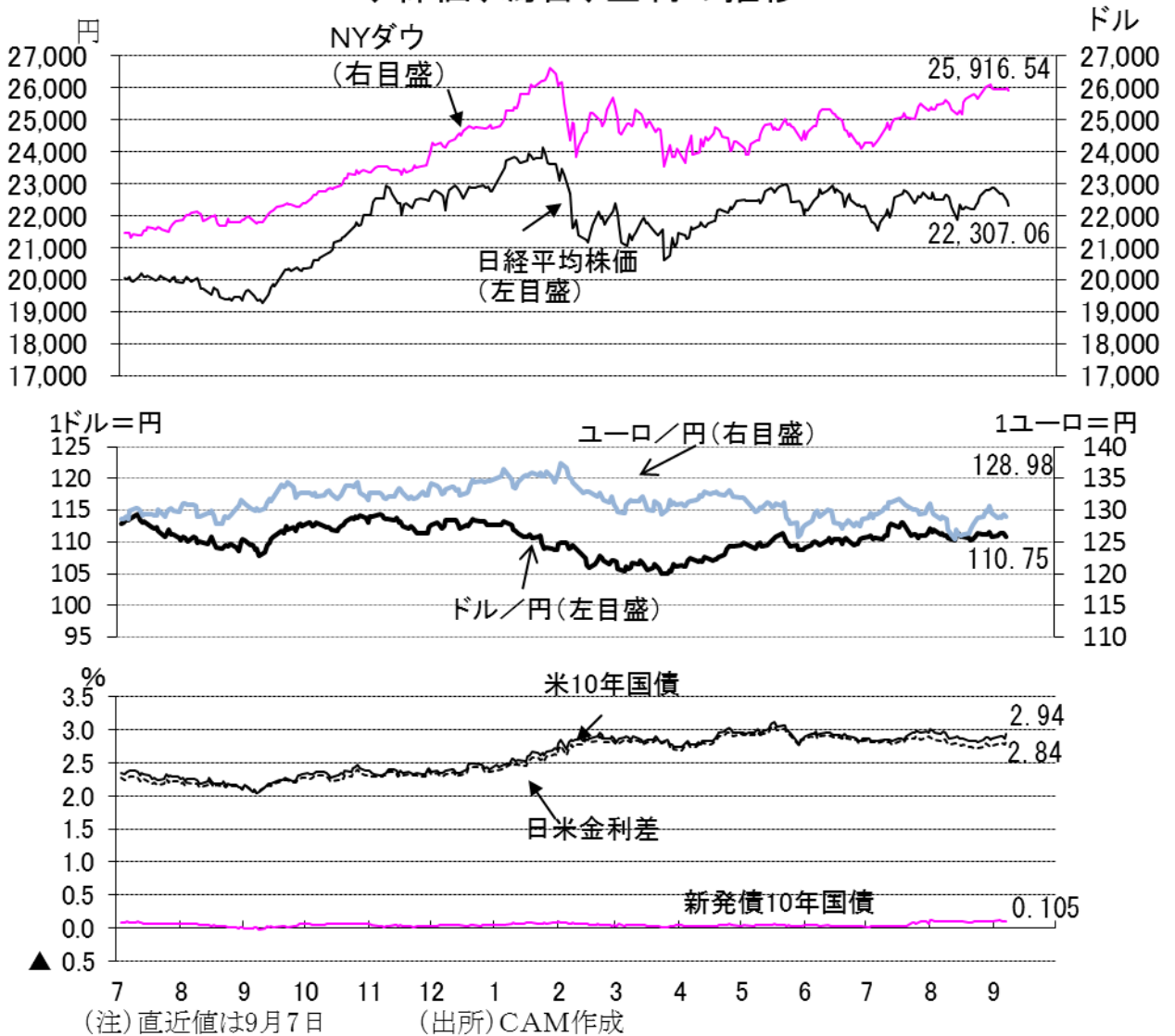
とりわけ秋相場を考える上で企業業績の動向は重要である。4-6月期の企業決算の発表では、好調な企業業績の進捗が確認されたが、会社側の計画に上方修正の動きは手控えられている。世界経済の緩やかな拡大が続いていることから、10月中旬以降の上半期決算では、業績を見直す企業が増えよう。8月下旬から9月上旬にかけて発表された証券系調査機関の企業業績見通しでは、18年度の経常増益率を8%前後から2桁増益に上方修正している。コスト増要因も目立ってきたが、企業努力でこれを吸収し拡大する見通しである。また台風21号や北海道地震の被害復旧もあり、秋の国会では景気対策期待も高まりやすい。9月（9月11日から10月10日）の日経平均の予想レンジは2万2,000円～2万3,500円。

### <米国株式>

米加のNAFTA再交渉の行方や米中貿易摩擦激化懸念といったリスク要因がくすぶる中だが、米国経済が減税効果や堅調な雇用、力強い消費動向に支えられ、GDPで年率3%を超える成長を続けていることを好感し、利益確定売りをこなし高値圏での推移を続けている。引き続きトランプ大統領は通商交渉で強硬姿勢を示し、また米中貿易摩擦にはハイテク分野の覇権争いという面もあり、不確実性の高い状況は継続しそうだが、投資家の判断も冷静さを増しているように見える。

ただ、米国経済が拡大ペースを速めており、物価上昇圧力が高まる傾向にあることには注意が必要であろう。パウエルFRB議長は、経済の持続的成長とインフレ加速という2つの目標をバランスよく達成する必要性を唱え、慎重な金融政策を目指していく考えを示し、株式市場に安心感を与えた。一方、現状の利上げペースが続くと20年半ばには中立金利に達する。景気のピークアウトが意識されるとの声も強まっており、利上げペースが速まると株価の強気シナリオが崩れる可能性がある点には注意したい。9月（9月11日から10月10日）のNYダウの予想レンジは26,000±800ドル、ハイテク株の多いNASDAQは7,900±300ポイントを予想する。

## ◇株価、為替、金利の推移



お問い合わせ先 ちばぎんアセットマネジメント株式会社 調査部 電話 (代表) 03-5638-1460

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第443号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-13-7

### 【重要開示事項】

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社 (以下「CAM」) 調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。